

# 観光料飲部会長報告

第4回観光料飲部会（オープン部会）を2月25日に29名が出席し、ホール80で開催いたしました。

今回は「新スタジアム整備構想策定協議会報告書について」をテーマとし、秋田商工会議所総務企画部長、小野貴宏氏をゲストに迎え、2月12日に協議会から県・秋田市に提出した報告書の内容について懇談しました。



松村観光料飲部会長

## 【秋田商工会議所 総務企画部長 小野 貴宏 氏】

### (1) 協議会設置の経緯

平成29年度に県が設置した「スタジアムのあり方検討委員会」において、スタジアムを整備することが望ましいとの方向性が示された。

これを受け、ブラウブリッツ秋田のホームタウンである県、秋田市、男鹿市、由利本荘市及びにかほ市を委員とした新たな協議会を設置し、検討にあたっては、地域の総合経済団体である秋田商工会議所を加えた6者で「新スタジアム整備



講師 小野 貴宏 氏

構想策定協議会」を平成30年5月に設置した。

### (2) 協議会設置の目的

スタジアムの建設主体、建設場所、規模や機能等について調査及び協議することを目的とする。（建設場所を特定することは目的としていない。）

### (3) 候補地の選定

八橋運動公園内、秋田プライウッド(株)所有地、国立大学法人秋田大学敷地の3カ所について調査を進めることにした。

### (4) 各候補地の調査項目

各候補地について、広さ、アクセス、駐車場、法的規制、地権者の意向、経済効果等13項目について調査・確認を行った。

### (5) 調査及び競技結果の概要

#### 建設主体に関すること

スタジアム本体については、民間資本等の参入可能性を探りながら、秋田県と秋田市が中心となって進めるべきである。

なお、他都市の事例を参考とし、商業施設等の付帯施設を設ける場合は、民間資本等の参入を検討する必要があるとの意見があった。

### 建設場所に関すること

3候補地とも課題はあるが、八橋運動公園を適地とする委員が多かった。

専門委員会16名において、八橋運動公園を推す委員が9名、秋田プライウッド株式会社所有地を推す委員が1名、八橋運動公園と秋田プライウッド株式会社所有地のいずれかとした委員が1名、それぞれ課題があり適地と判断できる候補地はないと回答した委員が1名、街づくり等の観点から建設地である秋田市の意向を尊重すべきとの理由で、明確な候補地を表明しなかった委員が4名であった。

### 施設の規模及び機能に関すること

規模について、八橋運動公園ではJ2基準、J1基準とも基本形のスタジアムは配置できないが、観戦スタンドの調整により、J2基準及びJ1基準を満たすスタジアムを配置することができる。

秋田プライウッド株式会社所有地ではJ2基準、J1基準とも基本形のスタジアムが配置できる。

秋田大学敷地ではJ2基準の基本形スタジアムは配置できないが、観戦スタンドの調整により、J2基準を満たすスタジアムを配置することができる。J1基準を満たすスタジアムについては、配置することができないとの調査結果が示された。

機能については、全天候型屋根、ホスピタリティースペース、インナーコンコース、大容量高速通信設備等が必要であるとの意見が出された。全天候型屋根については、専門家から維持管理費や降雪による天然芝への影響等の課題も示された。

### 運営主体及び運営手法に関すること

スタジアム本体については、行政による直営または指定管理者制度が考えられる。商業施設等の付帯施設を設ける場合は、民間資本等の参入を検討する必要がある。

### その他

建設費、維持管理費、収支、経済効果等について各候補地毎に算出した調査結果について説明があった。

### 【意見交換内容】

- ・収支シミュレーションにおいて全天候型屋根の有無で収入が変わらないのは何故か。  
→天然芝使用のスタジアムでは、全天候型屋根付きであっても養生の必要性とその費用から、コンサートやその他の飲食を伴うイベントを実施することが困難であるため。  
※全国にある収容人員3万人以下のスタジアムでのコンサート開催実績なし。
- ・コンサル業者の調査結果を見ると八橋運動公園内が最適地と思われるが結論は。  
→調査・確認を目的として設置した協議会であり、県と秋田市にはその結果を報告している。結論については今後県と秋田市が協議を進めていくことになる。

懇談後には平成31年度部会活動計画についての協議を行いました。以上が観光料飲部会からの報告です。